令和 5 年度「WWL 高校生国際平和会議」

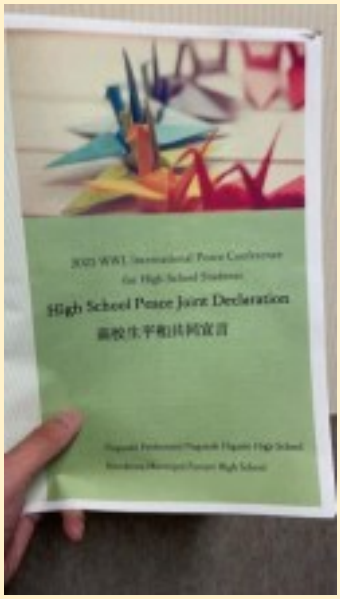
～世界へ届け、「平和」の声：長崎県立長崎東高等学校との共同平和宣言発表～

7月27日（木）～7月29日（土）の3日間で本校生徒6名が長崎県を訪れ、長崎県立長崎東高等学校主催の「WWL 高校生国際平和会議」に参加しました。本国際会議には7つの都道府県と5つの国（ハワイ、オランダ、タイ、ウクライナ、中国）の高校生が参加し、『共生』『環境』『社会』『経済』という４分野についてのディスカッションが行われました。また会議の最後においては、本校生徒と長崎東高等学校生徒とで策定した「高校生平和共同宣言」の英語発表を行いました。

被爆地「ヒロシマ」と「ナガサキ」、そしてそこから「平和」を発信する「舟入生」と「東高校生」。生徒たちはこの会議や宣言文作成に当たり、約１年間様々な取り組みを行ってきました。この活動を通して結んだ両校の「絆」は尊く、この「絆」こそが未来の「平和な世界」へと続く「スタート」です。東高校の皆さん、本当にありがとうございました。そして「これからも」よろしくお願いします。

『会議にむけて事前の話し合い』『平和共同宣言発表事前打ち合わせにて』

『平和共同宣言文多言語翻訳（舟入卒業生もフランス語、スペイン語、アラビア語翻訳を手伝ってくれました）』



『英語国際会議 パネラーとして本校生徒』『会議後 全体集合写真』

『平和共同宣言文発表（宣言文の結びは両高校の校訓で）』

『3日目は長崎東高校の生徒と市内散策』

～参加生徒の「声」～

舟入の先輩方に、フランス語の基本からわかりやすく教えていただき、改めて、先輩の偉大さを知るとともに、OG や OB の方々との繋がりを大事にしていかないといけないな、ということを感じました。宣言文発表当日に翻訳された宣言文を見た時には、これから、この文章が世界へと発信されて行くのだと考えると、自分が携わらせてもらった今回の共同宣言の重みを実感し、参加させてもらってよかった、と思いました。

私たちは「原爆が落とされた広島・長崎の高校生で平和について発信したい！」という思いのもと、長崎東高校と一緒に平和共同宣言を作成し、英訳したものを国際平和会議で発表しました。 この宣言文を読んだ人の「平和」を考えるきっかけになればと思います。世界がどう変わったら、自分が何をしたらいいのか。そうやって、全ての人が平和のバトンを持ち、渡せるような世界になることが私の願いです。

発表当日は午前中の練習も午後からの発表本番も舟入高校の生徒、長崎東高校の生徒ともに、とても緊張した様子でした。実際に発表が始まってからは、それぞれが分けられた担当の文章の中で特に伝えたいところをジェスチャーを使ったり、抑揚をつけたりして 1 人でも多くの人の心に残るように工夫していました。私は、この平和共同宣言を通して、初めは全く関わったこともなかった長崎東高校の生徒さん達と関わっていくなかで、仲良くなったり、一緒に協力して平和共同宣言の発表のために練習して発表するということに楽しさや達成感を感じました。それと同時に今まで体験してきた友達と一緒に遊んだり、部活でみんなと練習したりするのとはまた違った青春を味わうことが出来てとても良かったなとも感じています。卒業生の方々がよくおっしゃっているみんなと協力して受験勉強することは辛いが楽しさもあるという言葉が僕なりに少しわかった良い経験が出来た機会だったと思います。

平和会議に参加するにあたって今まで言葉でしか聞いたことなかったこと例えば NPT などを詳しく知る機会があり、今まで核兵器や戦争のことについては人一倍知っているつもりでしたが、自分の無知さを知ることができました。また、様々な高校の方と接していくうちに高校生で国際的な視野を持っている人がたくさんいることを知り、将来に希望が持てるようになりました。この会議を通じて今度は広島で開催できたら良いなと感じました。

長崎東高校生徒さんは初対面でありながら気安く話しかけてくれたり、練習で私がミスした際にも優しく声をかけてくれたりと、練習は終始和やかに行われました。このことから私は人の温かみを感じるのと同時に、これこそが平和の形なのではないかと思いました。この学びを活かして、人との繋がりを大切にし、それを平和へのきっかけにするという意志を、これからの自分の生活に繋げていきたいです。

私は今回、生徒主体で会議を作り上げる経験を通じて、共同で物事に取り組むことの大切さを実感し、自身のコミュニケーション能力に自身を持つことができました。私自身、以前から「多様な人々との対話が大切」と言葉では言い続けてきたものの、自身のコミュニケーション能力に自信を持てずその機会を避け続けていました。そのため、経験不足により会議のイメージがうまく掴めず、どれだけ練習しても不安と緊張が消えることはありませんでした。そのような状況でも会議を最後までやり遂げることができたのは共に取り組む仲間がいてくれたからです。ファシリテーターさんや他のパネリストさんの取り組みが私にとっても刺激となり、責任感を持って最後まで粘り強く取り組むことができたのだと思います。このことから私は、共同で物事に取り組むと言うことはより良いものを作り上げるという面だけでなく、各々が責任感を持って取り組むと言う面でも大切なことなのだと実感しました。 これからも、ドイツ修学旅行や模擬国連をはじめとした、多くの人と共にプレゼンテーションやディスカッションに取り組む機会があると思います。その時には、今回培った経験を活かして、積極性、責任感を持って臨みたいです。また、今回の会議で背景知識や英語力、論理的思考力がまだまだ未熟であることを痛感したので、そのような視点を常に意識し、これまで以上に精力的に授業や行事に取り組みたいです。